

を荒らしてもらおうことをあらかじめ伝えました。

紙に数字を書いて、くじ引きを実施。教師も交えて誰が何番かは知らせず、感想コメントを打ってもらい、大人には多少、荒らしてもらおうことを伝えます。

その上で、動画を見てコメントする活動を行った結果、以下のような傾向が見られました。

- ・ドクロや一般的に不快感を与えるような絵文字は使われなくなった。
- ・相手が見えない人であることをしっかりと意識する様子が見られた。
- ・文章としても他の人が見ても嫌な思いをしないような言い回しになっていた。

授業の振り返り

生徒の感想

- ・コメントする側も気をつけなければな
- いとと思った。
- ・誰が見ても大丈夫なコメントをしなきゃいけないと思いました。
- ・誰が見てるかわからないのはちょっと怖い。
- ・スタンプや絵文字を使うときは相手の事も考えて使おうと思った。
- ・スタンプを間違わないで使いたい。

という感想が見られました。



実践を通して

生徒たちは、日常的な経験不足や身体機能の低下等から自己肯定感が低く自分から発信することが少なくなってしまう傾向が見られています。その中で、自分たちが使いやすいツールを使って自分の気持ちを伝える活動としてコメントをしたり、スタンプから相手の感情を読み取ったりする経験をするのは重要だと考えています。授業を通して「できる」「できた」「またやってみよう」といった気持ちを持っていくことが生徒たちの成長には必要です。今後もそうした環境作りをICTやテクノロジーの特長を活かした指導をしていくことで、生徒の可能性を広げていきたいと考えています。

4 おわりに

今回のテーマである、「スマートフォンやタブレット、インターネットとのつき合い方」は、文部科学省のWebページをはじめ、様々なWebサイトや、書籍、雑誌等で情報を得ることができます。今回のテーマの特徴は、特に、情報技術の特性（「技術的な側面」、「環境的な側面」）において、技術やサービスが日々変化し、そのための新たな対応をいく必要があることだと考えます。ここでは、現状での課題と考えられる内容を三点取り上げ、そして、SNSに関するお二人の先生方と創出した実践事例を二つ紹介させていただきます。

最後に、支援者の皆様に、広いテーマであり、障害のある方に対するデジタル機器等の試用に関する知識を得る方法を一つご紹介し、まとめとします。

デジタルアクセシビリティアドバイザー

デジタルアクセシビリティアドバイザー

(Digital Accessibility Advisor / 略

称: DAA)とは、ICT機器などのデ

ジタル機器を障害のある人や高齢者に対

して、その困りに合わせて適切にコーデ